

「なつほのか」栽培暦 2024年(暫定版)

作成:大分県農林水産研究指導センター
農業研究部 水田農業グループ

	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
標高 200~ 400m	稲の生育																	
	水管理																	
	防除																	
標高 0~ 200m	稲の生育																	
	水管理																	
	防除																	

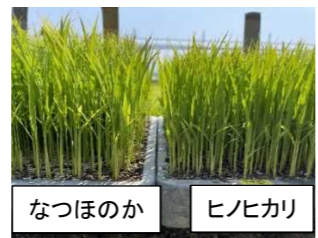
各作業のポイント

① 圃場の選定

- ・ヒノヒカリと熟期が異なるため、水管理や防除などの管理が個別に行えるほ場を選ぶ。
- ・深耕を行うことで根域が拡大し、気象変動の影響を受けにくくなり、多収となる。

② 育苗管理

- ・種子消毒は必ず実施する。
- ・苗箱施薬は、必ず規定量(50g/箱)を散布する。
- ・緑化と硬化はヒノヒカリより1~2日早く開始し、伸びすぎに注意する。
- ・3cm程度で遮光シートをはずし屋外へ
- ※苗はヒノヒカリより伸びやすい



③ 施肥

- ・窒素施肥量は、以下の標肥栽培を基本とする。
- ・**基肥-穂肥: 4-3 (kg/10a)**
- ・穂肥は**幼穂長2~10mm(出穂22~17日前)頃**に施用する。
- ・一発肥料を施用する場合は、**移植同時施用で90日タイプ** 耕起時施用で100日タイプを用いる。
- ・地力の高い圃場では倒伏防止、いもち病の防止のため、基肥は控えめに施用する。

④ 移植

- ・坪あたり**50~60株(株間22~18cm)**程度の栽植密度とする。
- ※極端な疎植は、穂数が確保できず、収量が低下する恐れがあるため行わない。
- ※極端な密植は、過繁茂による病虫害発生や倒伏を助長する。
- ・移植後は湛水し、通常どおり除草剤を散布する。

⑤ 水管理

- ・ヒノヒカリと同様の水管理を行う。管理が遅れたり、早すぎたりしないように注意する。
- ・耐倒伏性向上のため、**中干しを確実に**行う。
- ・中干しを開始する目安は、**茎数が1株20本程度**になったとき。
- ・**間断灌水**、出穂前後湛水により増収を目指す。
- ・刈り取りに支障がない程度に、**収穫直前まで間断灌水**を行う。

⑥ 病虫害防除

- ・いもち病、紋枯病、チョウ目、ウンカ類、カメムシの発生に注意する。
- (特に、**いもち病・カメムシには要注意**)
- ・前年に稲こじ病が多発した圃場では、適期(出穂前)に防除する。
- ・**発生予察情報**に基づいた防除を行う。



発生予察情報はここから(病虫害対策チームHP)



※トビイロウンカについては、県が発表する警報・注意報に注意し、対策を行ってください!

⑦ 適期収穫、乾燥調整

- ・収穫適期(青刈率**10~15%**)に収穫し、品質を低下させない。
- ・収穫適期は**出穂期後からの積算温度**(日平均気温の積算値)が**約1050~1100℃(早限1000℃、晚限1200℃)**
- ※早刈は青未熟粒、刈遅れは茶米や胴割れ米が多くなり、品質・食味ともに低下する。
- ・高温乾燥・過乾燥を避ける。(適正水分**14.5%~15.0%**)

「なつほのか」の特徴・留意点

- ・**早生品種**
(ヒノヒカリより出穂期は4日、成熟期は7日程度早い)
- ・ヒノヒカリと比べ、稈長、穂長は同程度、穂数はやや多い。
- ・**基肥N: 4kg/10a**
- ・移植 坪あたり**50~60株程度**
- ・**穂肥N: 3kg/10a(幼穂長2~10mm目安)**
- ・病虫害防除
いもち病:ヒノヒカリ同様に弱いため、防除を徹底する。
カメムシ類:ヒノヒカリ作付地域では、出穂が早いため、カメムシ類が集中する可能性があるため、適期にカメムシ防除を徹底する。

